

いつからだろう？ 私たちが不都合な真実に目を背け続けるようになったのはいつからだろう？ 私たちが多様な価値観を理解しなくなってしまったのは。私たちは演劇表現を通して、「自由や民主主義が存在する社会」を目指してきました。ナシヨナリズムによらない自由な表現を展望することによって、描かれる未来像とは？演劇は、現代の市民社会で、どんな力を発揮できるのか？

表現の自由 と 私たちの演劇

顧みれば、演劇は言論を左右する大きな役割を担ってきました。

私たち表現者は、昨年『演劇大学2016』に続き、本年も、今一度自分たちのコトバを見つめ直し、「自由や民主主義が存在する社会」をつくらうとする行為について、再認識したいと考えています。

そこで、現代思想・教育・民主主義の観点から、様々な分野で活躍する有識者をお招きし、

関西を拠点に活動する演劇人・表現者との対話の場を設けたいと思います。

前期

- 第1回 2017/11/17(金)「今、北朝鮮の人々は」 石丸次郎 (アジアプレス大阪事務所代表)
- 第2回 2017/11/22(水)「イラクから見る日本・暴力の連鎖の中で考える日本の平和憲法」 高遠菜穂子 (イラク支援ボランティア)
- 第3回 2017/11/24(金)「規制しているのは誰だ？」 森達也 (映画監督・作家・明治大学特任教授)

後期

- 第4回 2018/2/7(水)(仮)「メディアが語らないパレスチナ問題と『国境なき朗読者たち』」 岡真理 (アラブ文学者。京都大学大学院人間・環境学研究科教授)
- 第5回 2018/2/10(土)(仮)「コントで痛烈に社会を射る。テレビの限界とLIVE」 かわら長介 (TV 構成作家)
- 第6回 2018/2/18(日)(仮)「高校演劇が地域演劇を創る～青森中央高校演劇部の挑戦」 畑澤聖悟 (劇作家・演出家。劇団「渡辺源四郎商店」主宰)

文化庁委託事業「平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

演出家・俳優育成セミナー2017 【会場】ドーンセンター (大阪市中央区大手前1-3-49)

演劇大学 in 大阪 2017



文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

演出家・俳優育成セミナー2017

演劇大学 in 大阪 2017

【前期】2017年11月17日～2017年11月24日

【後期】2018年2月7日～2018年2月18日

【参加費】500円（協会員は無料）高校生 / 無料

【お申込み】一般社団法人 日本演出者協会 関西ブロック事務局

■メールでお申込み下さい

■件名に「演劇大学」と明記して下さい。

本文に「受講希望日と講師名」「受講者氏名」「人数」「連絡先電話番号」を記入して送信してください。

E-mail / kansaiblock@yahoo.co.jp

【会場】ドーンセンター



〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m。

地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。

JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

「今、北朝鮮の人々は」

日時

2017年11月17日（金）19時～21時

会場

ドーンセンター5階 視聴覚スタジオ

日々、アメリカとの緊張の高まりを報道されている、北朝鮮。しかし報道の映像に映る「北朝鮮」からは、市井の生々しい暮らしは見えて来ない。

飢餓はどうなっているのか？ 統制された社会の中で人々は何を想っているのか？ 北朝鮮国内にジャーナリストを育てるなど、

独自に調査、活動をされている石丸次郎氏から、隣の国北朝鮮の政府ではなく、市井の人々の「現在」と「想い」を訊く。



石丸次郎

-ISHIMARU JIRO- アジアプレス大阪事務所代表

1962年大阪出身。

朝鮮世界の現場取材がライフワーク。北朝鮮取材は国内に3回、朝中国境地帯には1993年以来約100回。これまで900超の北朝鮮の人々を取材。

2002年より北朝鮮内部にジャーナリストを育成する活動を開始。北朝鮮内部からの通信「リムジンガン」の編集・発行人。

主作品に「北朝鮮難民」（講談社）、「北朝鮮に帰ったジュナ」（NHK ハイビジョンスペシャル）など。

「イラクから見る日本 ～暴力の連鎖の中で考える日本の平和憲法」

日時

2017年11月22日（水）19時～21時

会場

ドーンセンター 4階 大会議室

「平和」な日本で育った私は、イラクで初めて日本の平和憲法の「ブランド力」の高さに感嘆する。

しかし、日本のイラク戦争への積極的参加はそのイメージを大きく変え、あちこちで矛盾を追及されるようになった。

日本の「平和」とは何なのか？ 国際ニュースが極めて少ない「情報鎖国」の日本では、知ることが難しい日本の姿。

暴力の連鎖が止まらない世界において「平和の国ニッポン」というブランド力は活かされるのか？ 私たちは今なにを求められているのか？



高遠菜穂子

-TAKATO NAHOKO- イラク支援ボランティア

1970年、北海道生まれ。大学卒業後、会社員を経て地元で飲食店経営に携わる。

2000年インドの「マザーテレサの家」、2001年からタイ、カンボジアのエイズホスピスでボランティア活動に専念。

2003年5月からイラクでの活動開始。2004年4月にイラク・ファルージャで「自衛隊の撤退」を要求する現地武装勢力に拘束された。

解放後、日本国内で「自己責任」パッシングを受ける。現在もイラク人道・医療支援活動を継続中。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」呼びかけ人。

著書に『戦争と平和 それでもイラク人を嫌いに出来ない』（講談社）『破壊と希望のイラク』（金曜日）、共著に『私にとっての憲法』（岩波書店）など。

「規制しているのは誰だ？」

日時

2017年11月24日（金）19時～21時

会場

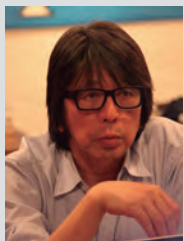
ドーンセンター5階 視聴覚スタジオ

中学高校時代、フォークソングがブームだった。吉田拓郎に泉谷しげる。岡林信康に高田渡。井上陽水にかぐや姫。毎夜ラジオで彼らの歌を聴きながら、時おりDJが

「この曲は放送禁止歌に指定されました」などと言う。東大安田講堂陥落にあさま山荘。政治的な時代でもあった。国家権力許すまじ。そんな思いを抱えながら受験勉強をやっていた。

テレビでドキュメンタリーの仕事を始めたころ、放送禁止歌をテーマにしたいと考えた。でも放送禁止歌は放送できない。ならば何をどのように撮ればよいのか。そんな思いで撮り始めた。

そして唖然とした。誰が規制しているのか。誰に規制されているのか。その理由は何か。ここにはまさしく日本がある。放送してからほぼ二十年。付度や自主規制はすっかり流行語になっている。



森達也

-MORI TATSUYA- 映画監督・作家・明治大学特任教授

テレビ・ディレクターだった1998年にドキュメンタリー映画『A』を公開。

2001年、続編『A2』が、山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞を受賞する。主な著書は『A』『クオン・デ』（角川文庫）、『放送禁止歌』（光文社知恵の森文庫）、『下山事件』（新潮社）、『王さまは裸だと言った子供はその後どうなったか』（集英社新書）、『ぼくの歌・みんなの歌』（講談社）、『死刑』（朝日出版社）、『オカルト』（角川書店）、『チャンキ』（新潮社）など。2011年に『A3』（集英社）が講談社ノンフィクション賞を受賞。

2016年には新作映画『Fake』を発表。最新刊は『FAKEな平成史』（角川書店）

【お問い合わせ】Tel / 080-4025-2202（関西ブロック事務局）

※つながり場合がありますが、着信履歴より折り返しご連絡させていただきます。

※受講希望のすべての方に受講していただけるよう会場準備しておりますが、申込者多数で収容人数を超える場合は、受講をお断りさせていただく場合もあります。

主催／文化庁・一般社団法人 日本演出者協会 企画制作／一般社団法人 日本演出者協会 関西ブロック

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎3F TEL: 03-5909-3074 FAX: 03-5909-3075

E-mail: jda_info@yahoo.co.jp WEB: http://www.jda.jp/

【一般社団法人 日本演出者協会】和田喜夫・川口典成・秋葉舞子

【関西ブロック代表】木嶋茂雄

【関西ブロック役員】秋山太加・井之上淳・岩崎正裕・金子順子・菊川徳之助（理事）木嶋茂雄・キタモトマサヤ・島守辰明・

高橋恵・田中孝弥（理事）・棚瀬美幸・堀江ひろゆき・松本修・森本景文・山本つづみ・わかぎるふ

